

松嶋夜話 卷之下 62

〔原文〕翌月歸于松島

〔訓読〕翌日、松島に歸える

〔原文〕諸子等出向富山麓而擁於駕歌歸歟矣

〔訓読〕諸子等、富山の麓に出向し、駕を擁し歸らんと歌う

※帰歟…「論語・公冶長」の「子在レ陳曰、歸与歸与、吾党之小子狂簡、斐然成レ章。不レ知三所
二以裁一レ之也」による。「帰ろう」と帰るのを促す意、帰ること。帰ろうとするこ
と。

〔原文〕遲雷雷前後

〔訓読〕遅れて前後を雷す

※この訓読よくわかりません

〔原文〕念五日而入于瑞巖

〔訓読〕念ずること五日にして瑞巖に入る

〔原文〕又未遑于假

〔訓読〕又た假に遑(いとま)あらず

〔原文〕小師乙鶴澤盛國太峯定禪年來勞形土木

〔訓読〕小師乙鶴沢の盛國の太峯の定禪、年来形を土木に勞し

※盛國寺…宮城県黒川郡大和町鶴巢小鶴沢字寺前80

※定禪寺…かつての仙台藩・陸奥国領仙台城の城下町にあった寺。

※太峯…地名?人名?

〔原文〕且革寺基

〔訓読〕且つ寺基を革め

〔原文〕理於田畝添給料

〔訓読〕田畠を理さめ、給料を添へ

〔原文〕造新丈室而安妥鎮守上官太子

〔訓読〕新たに丈室を造し、鎮守上官太子を安妥す

〔原文〕來謁松島迎法駕

〔訓読〕松島に來謁し法駕を迎え

〔原文〕敬而請入佛慶贊法事

〔訓読〕敬みて入佛慶贊の法事を請ふ

〔原文〕山僧強而不可拒

〔訓読〕山僧強ひて、拒むべからず

〔原文〕引諸子郎往矣

〔訓読〕諸子を引きて往く